

高校生就活 売り手市場

来春卒業予定の高校生に対する企業の採用選考が16日解禁され、全国で面接や筆記試験が始まった。景気が回復傾向にあり、高校生の求人倍率はリーマン・ショックがあった2008年度以来の1倍超に。高校生の「売り手市場」となり、企業側が人材確保に苦戦する一方、「業務内容や労働条件が希望に合わない求人も多い」と高校側は警戒感を募らせている。

来春卒 採用選考解禁

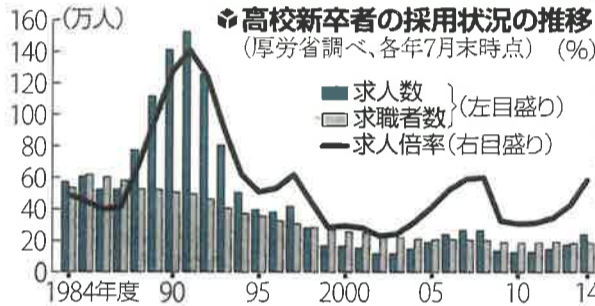


緊張した様子で面接に臨む生徒ら（16日午前、東京都文京区の「鈴木組」で）

求人6年ぶり1倍超

■社長自ら

この日午前、東京都文京区の建設会社「鈴木組」で、生徒6人が緊張した面持ちで面接に臨んだ。面接を終えた青森県の五所川原第一高校3年の木村優斗さん（18）は、「技術指導が充実しているの、この会社を選んで。早くあこがれの職に就きたい」と目を輝かせていた。



東京スカイツリーの鉄骨施工を手がけた同社だが、知名度は今一つ。このため、鈴木組社長（52）自ら求人票を手配し、7月から北海道

や東北、都内の約70校を訪れ、例年通り6人の入社希望者を集めた。鈴木組社長は「地方でも景気が上向いており、東京まで職探しに来てくれるか心配したが、ほっとした」と胸をなで下ろす。

■少子化も背景

厚生労働省によると、来年度3月卒業予定の高校生の求人倍率は、1.28倍（今年7月末現在）。リーマン・ショック以前の水準に戻った。製造業と建設業、医療・福祉での求人が多く、中小企業は特に人材確保に苦戦している。

求人倍率が高いのは、少子化と進学希望者の増加により、求職者そのものが減っていることも背景にあ

る。

高知県立高知工業高校では、約20年前に卒業生の7割近くが就職していた。しかし、バブル崩壊後の1997年に進学コースを設けると、就職せずに進学する生徒が増えた。卒業後に就職する生徒は今半分ぐら

いた。同校の横畑健校長は、「企業から『景気回復してから採用したい』と言われるても、すぐには応えられない」と話す。

■ミスマッチも

高校側は求人の多さを歓迎する。自動車や都市工学などの専門分野がある東京都世田谷区の都立総合工科高校の就職希望者は47人だが、昨年より3割増しの413社から求人票が届いた。介護や飲食店など、専門とは無関係の業種も多い。人見正嗣副校長は「違う分野に進みたいと考える生徒もいる。選択肢が増え

たことはありがたい」と話す。

ただ、生徒の希望と合わない求人も多く見られる。港区にある都立芝商業高校では、同校への求人票は前年比で4割増えたが、半数近くは労働条件や業務内容が生徒の希望に合わなかつたため、生徒には知らせなかつたという。丸山正二郎校長は、「アルバイトの代わりかと思うような求人も

ある。生徒を就職させたいと思う求人は増えていない」と警戒している。

本田由紀・東京大教授（教育社会学）の話「求人倍率が高いのは、団塊世代の大量退職で人手が足りなくなった企業が、人件費が安くすむ高卒者で埋め合わせをしようとしている面もある。ただ、労働条件が悪いものも混じっており、高校側は注意が必要だ」